

まえがき

本書は、著者の前著『7日間完成 英語の冠詞ドリル』（ジャパントイズ）の姉妹編となるものです。前置詞は、冠詞と並び、日本人が英語を習得する上で最も困難を伴うものと言われています。そのような困難を克服する方法として、本書では、「英語の冠詞ドリル」の場合と同じように、“理論+実践（練習問題）”を基本コンセプトとして採用しています。他の冠詞参考書と比べた場合の本書の特徴は、“実践（練習問題）”の比重が大きい点にあります。

学習効率を高める上で、理論を学ぶことがたいへん重要であることは言うまでもありません。前置詞が文法的にどのような役割を果たすのか、それぞれの前置詞がどのような意味を持ち、どのような場合に使われるのか、似たような前置詞をどのように使い分けるのか、などに関して事前の学習一切なしに、ただ英語をたくさん読むことだけで前置詞を身に付けようとするのは時間の無駄遣いといえるでしょう。しかし、前置詞に関する文法的な説明を一通り読んで理解すれば、それで前置詞が身に付いたことになるかという、そうはならないことも事実です。やはり、自ら実際に前置詞を使う経験を重ね、試行錯誤を繰り返しながら、理屈抜きに前置詞がいわば「体でわかる」ようにならなければなりません。従って、前置詞の学習にあてる時間をすべて“理論”の学習のために使ってしまうのは得策とは言えません。少なくとも50%の時間は“実践”のために使うべきです。本書が実践に比重を置いているのは、そのような理由によるものです。

英語の前置詞は約150あると言われています。本書では紙数の制限上、使用頻度の高い42の前置詞を第1章で取り上げています。通常私たちが目にする英語文書に出てくる前置詞の9割は、本書で取り上げている前置詞でカバーされていると思われる。第3章のドリルでは、一度解いた問題文を暗記し、前置詞を文脈のなかでまるごと覚えることができるように、ウィットに富んだ文章、楽しく覚えられるジョーク、英語の歌詞などを問題文として取り上げています。読者の皆様には、解いたあとに問題文を丸暗記されることをお勧めします。

最後に、ジャパントイズ出版局出版編集部伊藤秀樹部長、同部西田由香、佐藤さやか氏のアドバイスを、および編集、校正の労に心からの謝意を表します。また、実務翻訳家のMark Stevenson氏に本書中のすべての英文のプルーフリーディングをお願いしたことを記し、感謝の意を表したいと思います。

2008年6月
椎名照雄

CONTENTS

まえがき ● 3

本書の構成と使い方 ● 6

第 1 章 前置詞の使い方 (解説編)

1 はじめに ● 8

- 1-1 前置詞の役割 — 8
- 1-2 副詞や接続詞としても使われる前置詞 — 9
- 1-3 前置詞が難しい点 — 9
- 1-4 前置詞が便利な点 — 10

2 前置詞の意味と使い方 ● 11

about — 11	beyond — 25	on — 41
above — 12	by — 26	over — 47
after — 13	concerning — 28	past — 48
against — 15	down — 29	since — 49
along — 17	during — 29	through — 49
among — 18	except — 29	to — 50
around — 18	for — 29	toward — 55
as — 19	from — 31	under — 56
at — 20	in — 32	underneath — 57
before — 22	into — 35	until — 57
behind — 22	like — 37	up — 57
below — 23	near — 37	with — 58
beneath — 24	of — 38	within — 60
between — 24	off — 41	without — 61

第 2 章 基本練習編 ● 63

第 3 章 応用問題編 ● 77

本書の構成と使い方

本書は、英語のネイティブスピーカーが無意識に身に付けている前置詞の使い分けを体感し、それを自分のものとすることを目標としています。

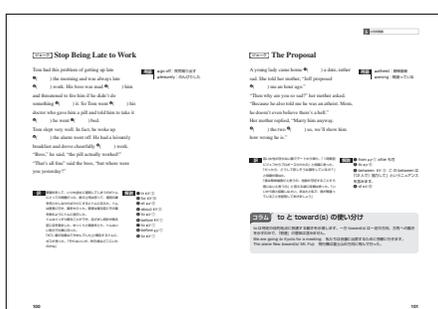
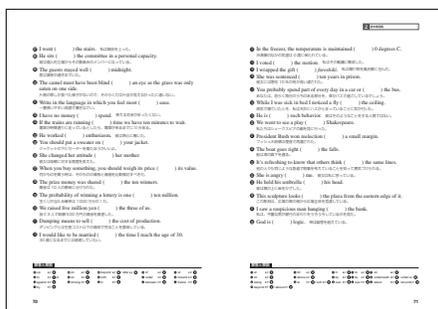
第1章では前置詞の基本的な使い方について学びます。まず前置詞の概念や特長を知り、それからそれぞれの前置詞の持つ意味を、たくさん例文を読みながら身に付けましょう。

第2章では簡単な練習問題を解きながら、前置詞の使い分けを復習します。和訳を参考にし、カッコを前置詞で埋めてみましょう。

第3章では、英語圏のよく知られたフレーズを問題としてとりあげ、文章を味わいながら前置詞の使い方をより詳細に学習します。問題文は歌詞やジョーク、名言や映画のセリフなどからとられているので、読んで楽しみながら前置詞の使い方が身につきます。

第2章と第3章の問題で、文頭にカッコがある場合、答えとなる前置詞の頭文字は大文字にすべきですので注意してください。また難しい語彙は、「用語」に意味を載せたので、読解の参考にしてください。

これらを何度も繰り返して練習することによって、ネイティブの前置詞感覚に近づくことができるでしょう。



第1章

解説編

前置詞の使い方

42 の前置詞の持つ意味や役割を知り、いろいろな使い分けを学習しましょう。

1 はじめに

1₁ 前置詞の役割

前置詞は、その名のごとく、“何かの前に置かれる語”を意味します。そしてその“何か”とは、名詞と名詞に類するもの、つまり名詞、代名詞、名詞節および動名詞です。

- 前置詞＋名詞 **He put it *on* the desk.** 「彼はそれを机の上に置いた」
- 前置詞＋代名詞 **I will sing this song *for* you.** 「あなたのためにこの歌を歌います」
- 前置詞＋名詞節 **You are responsible *for* what you said.**
「あなたは自分の言ったことに責任があります」
- 前置詞＋動名詞 **I can reach the floor *without* bending my knees.**
「私はひざを曲げずに床に手をつくことができます」

前置詞とそれに続く名詞（または代名詞、名詞節、動名詞）が組み合わさったものを前置詞句といいます。上の例の *on the desk* や *for you* などが前置詞句です。

以上が前置詞の基本ですが、次の例のように、前置詞の後に形容詞、副詞、前置詞句がくることがあります。

- 前置詞＋形容詞 **Violence should be regarded as shameful.**
「暴力は恥ずべき行為と考えられるべきだ」
- 前置詞＋副詞 **I didn't know about it *until* recently.**
「私は最近までそのことを知らなかった」
- 前置詞＋前置詞句 **He took it out *from* under the car seat.**
「彼は車のシートの下からそれを取り出した」

前置詞は、前置詞句を形成して、形容詞のような役割や副詞のような役割を果たします。

形容詞のような役割とは、名詞を修飾する役割、名詞に追加の意味を加える役割ということです。例えば次のような場合、前置詞句は形容詞的な役割を果たしています。

I want a seat *near* the exit.

上の例文は、「私は出口に近い座席が欲しい」という意味ですが、*near the exit* という前置詞句は *seat* という名詞にかかり、「座席」という言葉に「出口に近い」という意味を付加しています。

一方、副詞のような役割とは、動詞や形容詞を修飾する役割、動詞や形容詞に追加の意

味を加える役割ということです。例えば次の場合、前置詞句は副詞的な役割を果たしています。

He went *near* the exit.

上の例文は、「彼は出口の近くに行った」という意味ですが、*near the exit* という前置詞句は *went* という動詞にかかり、「行った」という言葉に「出口の近くに」という意味を付加しています。また次の例文の場合、*near the exit* という前置詞句は *cold* という形容詞にかかり、やはり副詞のような役割をしています。

It is cold *near* the exit. 「出口の近くでは寒い」

以上に述べたことは、見方を変えると、前置詞は、その後にくる名詞（または代名詞、名詞節、動名詞）と、その前にくる名詞、動詞（*be* 動詞および一般動詞）または形容詞を意味的に結びつける役割を果たしている、ということができます。

1.2 副詞や接続詞としても使われる前置詞

前置詞と分類される語の多くは、同時に副詞や接続詞としても使われます。

- A. I will be there *before* noon. 「私は正午前にそこに着いているだろう」
- B. I've never been there *before*. 「私はこれまでそこに行ったことがない」
- C. Let me know *before* you come. 「来る前に知らせてください」

A の例文の *before* は前置詞、B の例文の *before* は「以前に」という意味の副詞、C の例文の *before* は接続詞です。本書では、前置詞としての意味のみを取り上げています。

1.3 前置詞が難しい点

名詞の場合、その意味は基本的に一つで、ある名詞の意味を一つの文で定義することが可能ですが、前置詞の場合、その多くが複数の、しかも、多くの場合、かなりの数の異なる意味を持っています。

例えば、*by* という前置詞の場合、本書では 22 通りの意味をあげています。ある時は場所を表し、ある時は時間を表し、さらには手段を表し……というように、意味の範囲も極めて多岐にわたります。これらすべての場合に共通する意味を見つけることができれば覚えやすいのですが、（そして、前置詞によってはそれが可能な場合も確かにありますが）、この *by* のような場合、それは、少なくとも実用的観点からは不可能に近いと言わざるを得ません。従って、覚えるしかないという場合が多くあります。

第2章

基本練習編

基本的な使い方を覚える おさらい問題

日本語訳を参考にして、カッコ内に前置詞を1つずつ入れ、文章を完成させましょう。本章では、解説編で学んだそれぞれの前置詞の使い方を、繰り返し練習して習得していきます。

Exercise

- ① She spends money () water.
彼女はお金を湯水のように使う。
- ② He asked () her health.
彼は彼女の健康状態について尋ねた。
- ③ She was named () her grandmother.
彼女の名前は、彼女のおばあさんの名前をとってつけられた。
- ④ I don't know him personally but I know () him.
彼と個人的な付き合いはないが、彼のことを知ってはいる。
- ⑤ It is kind () you to do that. ご親切にどうもありがとう。
- ⑥ The robin feeds () insects.
コマドリは虫を食べて生きている。
- ⑦ The students were divided () small groups of four.
生徒たちは4人ごとの小さなグループに分けられた。
- ⑧ Africa lags far () other continents in terms of industrialization.
アフリカは工業化が他の大陸に大きく遅れている。
- ⑨ God is () all understanding.
神はすべての理解を超えた存在だ。
- ⑩ A *mawashi* is the traditional loincloth a sumo wrestler wears () his waist.
まわしは相撲取りが腰のまわりに巻く伝統的な腰巻だ。
- ⑪ We are all () pursuit of our own happiness.
私たちは皆自分の幸福を追求している。
- ⑫ All goods under two kilograms () weight will be sent by post.
重さが2キロ未満の商品は郵送します。
- ⑬ I saw her standing () the window.
彼女が窓際に立っているのを見た。
- ⑭ Compare this () that.
これとあれを比較しなさい。
- ⑮ I had only a piece () meat left in the fridge.
冷蔵庫には一切れの肉しか残っていなかった。
- ⑯ I don't think the accusation () him being an opportunist is fair.
私は、彼が日和見主義者だという非難は正当だと思わない。

解答と解説

- ① like ② after ③ / about ④ after ⑤ of ⑥ of
 ⑦ on ⑧ ⑨ in ⑩ behind ⑪ above ⑫ / beyond ⑬ around ⑭
 ⑮ in ⑯ in ⑰ by ⑱ / at ⑲ with ⑳ / to ㉑ of ㉒
 ㉓ of ㉔

第3章

応用問題編

有名フレーズで 楽しみながら学ぶ問題

日本語訳を参考にして、カッコ内に前置詞を1つずつ入れ、文章を完成させましょう。ここではよく知られた名文、台詞、ジョークなどを題材に取り上げ、読み、味わいながら、前置詞のさまざまな働きを覚えていきます。

歌詞 A Thousand Winds

Do not stand ❶() my grave and weep.

I am not there; I do not sleep.

I am a thousand winds that blow,

I am the diamond glints ❷() snow.

I am the sunlight ❸() ripened grain.

I am the gentle autumn rain.

When you awaken ❹() the morning's hush,

I am the swift uplifting rush

Of quiet birds ❺() circled flight.

I am the soft stars that shine ❻() night.

Do not stand at my grave and cry.

I am not there; I did not die.

用語

- glint : きらきら光る輝き
- the sun : 日光
- ripened : 熟した
- hush : 静けさ
- uplifting : 上昇する
- rush : 突進

訳

私のお墓の前で泣かないでください
 私はそこにはいません。私は眠っていません
 私は空を舞う千の風
 私は雪原のきらめき
 私は実る稲穂にそそぐ日の光
 私は静かな秋の雨
 あなたが朝の静けさに目をさます時
 私は静かに弧を描いて宙を舞う群れの中で
 空高く舞い上がる鳥
 私は夜空に輝くやわらかな星の光
 私のお墓の前で泣かないでください
 私はそこにはいません。私は死んでいません

解説

「千の風になって」の曲で有名になった詞です（いくつか異なるバージョンが存在しています）。英語の曲は、日本語の「千の風になって」とは異なるメロディーになっています。

❶ at ㊦ ❶ 冒頭の「私のお墓の前で…」の部分が in front of my grave ではなく、at my grave となっていることに気付かれたと思います。do not stand in front of my grave というと、英語では、お墓の裏側だったらいいけれど、お墓の前には立つなというように、立つ場所について指示しているような響きになってしまい不自然です。stand by だと～のそばに立つという意味になります。

❷ on ㊦ ❷ in も可

❸ on ㊦ ❸

❹ in ㊦ ❹ in hush で「静けさの中で」の意。to を使って awaken to the morning's hush も可

❺ in ㊦ ❺

❻ at ㊦ ❻ by も可。もし night に定冠詞 the がついていれば during も可

名 句

Tones sound, and roar and storm ①() me ②() I have set them down
③() notes. — *Ludwig van Beethoven*

用語 ■sound : 鳴る ■roar : うなる ■storm : 吹き荒れる ■set down : 書き留める

訳 音が鳴り、うなり、私のまわりを吹き荒れる。音符に書き留めるまで、鳴り止むことはない。

解説 ① about ㊦④ around も可

② until ㊦①

③ in ㊦⑥

ウィット

①() every party there are two kinds of people: those who want to go home
and those who don't.

The trouble is, they are usually married ②() each other. — *Ann Landers*

訳 どのパーティーにも2種類の人がある。家に帰りたがる人と帰りたがらない人だ。
問題は、大抵の場合、彼らが夫婦であることだ。

解説 人生相談で有名なコラムニスト、アン・ランダースの言葉です。

① at ㊦①

② to ㊦⑤

ウィット

A hospital is no place ①() be sick. — *Samuel Goldwyn*

訳 病院は、病人のいるべきところではない。

解説 ① to ㊦㉔-b

コラム

different の後にくる前置詞

「AはBと異なる」と言う場合、A is different from B. というように from を使うのが最も一般的ですが、different than、different to など、than や to もしばしば使われます。イギリス人は from の代わりに to を使うことがよくあります。一方アメリカ人は from の代わりに than を使うことがあります。different from に異議を唱える人はいませんが、different to や different than に対しては、正しい英語ではないとして、使用を認めない意見もあります。私達日本人が英語で書いたり話したりする場合は、different from に限定しておくのが最も無難でしょう。